

「介護離職」の対策は「楽しさの追及と専門性」から！

このような問題の原因として、給料や介護保険給付額などが取り上げられますが、それと同時に「楽しさ」があるかどうか？という点には、ほとんど言及されることはないようです。しかし、この「楽しい」という感情は軽視できません。

さて、人間の脳は「楽しい」と感じる時に最も力を発揮するという事は、脳科学でもよく言われますが、スポーツで好成績を上げた時の選手のコメントでも明らかです。しかし、介護や看護の世界では、このことはすっかり忘れられています。

また、介護の仕事をしようという若者や中高年者には「バリバリ仕事の競争をして高収入を得よう」といった目的の人は少ないでしょう。ほとんどが、優しすぎるくらい優しく、人に喜んでもらうことに生きがいを求めているのです。その彼らが現場で出会うのは、人生の最後のステージで何の刺激も楽しみもなく、ただ安全性と効率だけが求められる状況に耐えている高齢者の姿だったとしたら・・・。

それをルーチンワークとしてこなしていくこと、そして、こなすにも不十分な人的、物的環境なのです。シフトで働いていると仲間意識も薄く、仕事に想像していたような喜びを見出すこともできずに給料だけが保証される職場だったとしたら・・・。
楽しくなくっちゃ、生きていけない！

そこで、私たち日本ダイバージョナルセラピー協会は、ダイバージョナルセラピー(Diversional Therapy/D T)を日本に根付かせたいと普及・研修活動を展開しております。離職問題に関して結論から言うと、D Tの導入に成功して「楽しむ」ことが職務の一つとして堂々と実践できるようになった施設では、離職率がぐんと低下しているということです。副産物として、病院などでは患者からの苦情が減ったというデータもあります。

当協会の法人正会員で、複数の高齢者施設を運営するS氏は「4つの特定施設にD Tを導入する中で、D Tに最も熱心で成功している施設が、残業もなく離職者も少ない。収益性も最も高い」として、D T導入によって入居者と職員にも楽しむことを奨励することによる効果を語ります。

また、同じく法人会員の介護老人保健施設では、D Tを導入して9年。全く離職者の無い年もあり「D T実践を希望して、優秀な学生や転職者が就職してくるようになった」と事務長さんは言います。一度辞めた職員が戻ってくるケースもあります。

D Tについては少し後述しますが、このように「楽しさの追及と専門性」は、入居者のためだけでなく、働く人たちにとっても経営者にとっても、有意義なテーマとなっているのです。

ちなみに、昨年9月にオーストラリアのシドニーにある高齢者入居施設を訪問した際に、介護職員の給料を訪ねてみたところ、時給\$ 23とのことでした。オーストラリアでは介護職員のほとんどはパート勤務で、職員数は日本とあまり変わりませんが、入居者のライフスタイルに合わせてきめ細かく時間配分されています。2300円と聞いて、12人の参加者(介護・看護職員)はびっくりしたものです。

日本は、介護技術や介護にかかる税金の額や福祉用具の進歩(チェアを除いて・・・椅子は遅れている!)、施設の種類と数の多さでは、オーストラリアといわず世界に引けを取らないものでしょう。ただ一つ、日本がほとんど未開発のまま放置してきたものがあります。それが「楽しむことの専門性」です。

オーストラリアやニュージーランドにはダイバーショナルセラピーという「人生を楽しく自分らしく全うするための専門分野」があり、その専門職であるダイバーショナルセラピストが作業療法士や理学療法士などと同じように、高齢者施設や精神科、緩和ケア、リハビリテーションなどの分野で働いています。アメリカでは、セラピューティックレクリエーション、ヨーロッパなどではレクリエーションセラピーという名称で同様の分野があります。

しかし日本では、ある程度のレクリエーション、単発的な○○セラピーはありますが、それらを意味のある実践として実生活の中に活かし、コーディネートしたり、個人のために分析、調整してアプローチできる専門家が、ほとんど育っていませんでした。私はオーストラリアの高齢者介護取材の中で、このDTに出会い、オーストラリア・ダイバーショナルセラピー協会(DTA)と姉妹提携して、12年前に有志とともにNPO法人 日本ダイバーショナルセラピー協会を設立しました。

日本ダイバーショナルセラピー協会(日本DT協会/DTAJ) <http://www.dtaj.or.jp/>
オーストラリア・ダイバーショナルセラピー協会(DTA)
<http://diversionaltherapy.org.au/>

DTの詳しいことは、長くなりますので差し控えますが、日本では、日本DT協会がDTAと提携して、DTの実践者・ダイバーショナルセラピーワーカー(DTW)の養成を行っております。養成講座を修了して認定試験に合格した人が、現在255名(介護福祉士、看護師、リハビリテーション等)。

3月28日から第10期養成講座を東京で開催します。

また、1月17日にはDT導入8年になる香川県三豊市の「橋本病院」の認知症治療病棟でプログラムの実践も交えたセミナーを、2月14日には、米国からダンス/ムーブメントセラピーのDonna Newman Bluesteinさんを招いてワークショップを、それぞれ開催します。

特に、2月のワークショップでは、従来のようなセラピー単体の研修ではなく、DTの一環として、認知症の方にどんな意味があるのか、現場でどう実践していくのかなど、現場に即したワークショップとなります。

介護の人手不足、財政難が叫ばれる今、ぜひ「楽しさ」をキーワードとして高齢者と働く人のQOLに取り組むダイバーショナルセラピー活動にご注目いただければ幸いです。